

東日本大震災

レポート③

震災後、三か月の時が経ち、いまだ避難所生活を余儀なくされている方々、困難をおぼえながら日々を送られている方々をおぼえ、神の恵みが豊かにありますようにと切にお祈り申し上げます。

京阪神聖公会

日立ボランティアセンター

「京阪神聖公会 日立ボランティアセンター」の働きも、京阪神三教区の方々を中心に、多くの方々が参加され、被災者支援、具体的には福島県小名浜でのがれきの撤去や、避難所での「おかし屋台」や「足湯」、傾聴ボランティア、日立聖アンデレ教会や二葉幼稚園の整備や補修などが展開されています。被災地でのボランティアという、若者が参加する力仕事を想像される方が多いと思いますが、日立

でのボランティア参加者は、年齢も性別も多岐に渡っており、中でも精力的なシニア世代の方が大変ご活躍されています。「自分にできることをさせていただく」という思いの中、ボランティアに参加されています。六月十一日からは、メインの担当教区が京都教区になりました。今後とも、ボランティアセンターの働きに関心をお持ちいただき、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。ボランティアについてのお問い合わせは、大橋司祭・斎藤執事までお願いいたします。

郡山聖ペトロ聖パウロ教会応援

震災直後から小名浜での支援活動をされていた越山健蔵司祭(東北教区)が休養に入られたことに伴い、東北教区より北関東教区に同司祭が兼

牧されていた郡山聖ペトロ聖パウロ教会の主日聖餐式応援が要請されました。

五月八日に鈴木伸明司祭、二十二日に大橋邦一司祭、そして六月十二日に広田勝一主教が応援に参りました。広田主教は前日十一日の「東日本大震災三ヶ月記念祭餐式」(仙台)にも参加されました。

教会近くのマンションは基礎部分が崩れ、倒壊の危険があり周辺道路は閉鎖されました。また市内の建物は外観からはわかりにくいですが、亀裂や室内の破損は予想以上に深刻とのことでした。

原子力発電所事故による放射線量は住民の方々、教会と併設された幼稚園にも不安と影響を与えています。

教会聖堂は被害を免れましたが、会館は修復が困難な状況です。一時集積されていた支援物資は被災者の方々へ搬出されていました。

礼拝に出席されている二十名ほどの信徒の皆さんの中には、震災によってご親族を失った方もおられます。

現在は、越山健蔵司祭も復帰され、信徒の皆さんと共に新たにスタートされています。どうか、今後も皆さんのみ守りとご加禱をお願いします。

いっしょに歩こう!

プロジェクト

四月十二日に行われた各教区対策本部担当者の会において、日本聖公会が主体性を持って関わる「大震災支援対策本部」を仙台市内に設置する必要性が確認され、五月六日中村淳司祭(管区宣教主事)を責任者として「いっしょに歩こう!プロジェクト」が発足しました。このプロジェクトには「神様の導きによって被災者の方々が歩きはじめようとしたときに、私たちもその傍に寄り添いたい」(聖公会新聞六月号)との思いが込められています。現在のプロジェクトの動きについて中村淳司祭にお話を伺ったところ、南三陸、石巻、名取など六〇七か所での、避難所から仮設住宅へ移られた方々への支援、自治体の手が回っていない方々

への支援などが展開されています。今後、各地域に担当スタッフを置き、ボランティア・スタッフと協力しながらの支援活動も展開されていく予定です。現在、ボランティア・スタッフを受け入れるための施設の整備なども行われ、七月上旬には整います。

中村淳司祭は、ひとつの活動をすれば、新たな出会いがあり、また新たな支援活動の必要を感じるとおっしゃっていました。避難所生活者、仮設住宅生活者、障がい者、外国人、福島から全国へ避難した人々。まだまだ必要がまだまだ満たされていない現状があります。少しでも多くの必要が満たされるように、私たち一人ひとりの働きが求められています。仙台の本部だけでなく、日本聖公会に関わる全ての人が、それぞれの場でのプロジェクトに参加しているということを大切にしたいと思います。

(六月十五日記)

文書部 執事 斎藤 徹
司祭 大橋邦一